公益財団法人倶進会 2014年度第107回 公開セミナー

《日 時》 2014年10月11日(土) 13:00~15:00

《場 所》 財団法人倶進会事務所

《題 目》 「ソポクレス『アンティゴネ』- 「人間讃歌」(332-375 行)を中心に-」

《発題者》 佐野好則 氏 (国際基督教大学教養学部上級准教授)

[講師略歴]:

1986年ICU教養学部卒。1990年東京大学修士号。

1997年オックスフォード大学博士号。

1997年より東京都立大学人文学部助教授。

2005年より ICU 教養学部准教授。

2007年より ICU 教養学部上級准教授(現在に至る)。

専攻分野は西洋古典学。ギリシア古典のうち、叙事詩、抒情詩、悲劇を中心に研究。 共著書『ムーサよ、語れ』、『ギリシア・ローマ世界における他者』、『西洋古典学の明日へ』、 『パストラル―牧歌の源と展開―』など。

《概要》 本講演においては、紀元前 5 世紀において悲劇を観ることが市民たちにとって倫理や政治や社会について反省を促される教育の場であったことを確認し、具体的にソポクレス作『アンティゴネ』を取り上げて、当時の観客に対して、また現代の私たちに対してこの劇が提示する深刻な問題について考察します。特に 332-375 行で合唱隊が歌う「人間讃歌」に注目し、そこで描写される技術文明のあり方が劇全体の中でどのような位置づけとなっているのか考えたいと思います。